

平成 29 年 川崎市健康安全研究所 微生物検査情報 Vol. 3

目 次

1	食中毒検査結果（平成 29 年 1 月～9 月）	1
2	感染症検査結果（平成 29 年 1 月～9 月）	
(1)	腸管系細菌検査	2
(2)	呼吸器系細菌検査	3
(3)	ウイルス検査	4
3	侵襲性肺炎球菌感染症菌株解析結果	6

（発行：平成 29 年 10 月 10 日）

1 食中毒検査結果（平成29年1月～9月）

市内で発生した食中毒事例や有症苦情事例などについて、その原因究明や被害拡大防止を目的として、患者や関係者の糞便、原因推定施設の食品や拭取り等の検体について分離・同定検査を実施しています。

表1 食中毒検査における月別検査件数及び細菌検出状況（菌株含む）

	検体件数	検出細菌数																検出細菌数計	
		赤痢菌	サルモネラ属菌 (チフス菌、パラチフスA菌を除く)	病原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	腸炎ビブリオ (コレラを菌含む)	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター・ジェジュニ	カンピロバクター・コリ	ウエルシユ菌	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ (コレラ菌非O1、ビブリオ・ミミカス)	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス		セレウス菌
1月	24					1	2												3
2月	33						6												6
3月	99					5													5
4月	50					6	4	1											11
5月	8																		0
6月	42		1			1	5												7
7月	52		2			2	3	1										2	10
8月	16																		0
9月	38		2			7	6	1	1								6		23
計	362	0	5	0	0	22	26	3	1	0	0	0	0	0	0	0	6	2	65

表2 平成29年 川崎市内食中毒発生状況(調査中を除く) (9月末現在)

	事件数	患者数	死者数	喫食者数
平成29年	6	20	0	34
うち細菌性食中毒(表3参照)	3	15	0	28

表3 細菌性食中毒一覧

No.	発生月	原因施設	喫食者数	患者数	原因食品 (推定含む)	病因物質	措置
1	2月	飲食店	10	6	2/15に提供された食事	カンピロバクター・ジェジュニ	営業停止3日間
2	4月	飲食店	5	4	4/4に提供された食事	カンピロバクター・ジェジュニ	営業停止3日間
3	6月	飲食店	13	5	6/21に提供された食事	カンピロバクター・ジェジュニ	営業停止3日間

2 感染症検査結果（平成 29 年 1 月～9 月）

「感染症法の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法)に基づく届出により医療機関から搬入された菌株や感染症発生动向調査、感染症対策における積極的疫学調査等により採取された検体について、病原性細菌及びウイルスの分離・同定検査を実施しています。

(1) 腸管系細菌検査

表4 感染症検査における月別検査件数及び腸管系細菌検出状況（菌株含む）

	検体件数	検出細菌数																検出細菌数計				
		コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフス菌	病原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス・パラチフスを除く)	腸炎ビブリオ (コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコロリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア		プレシオモナス・シゲロイデス	カルバベネム耐性腸内細菌科細菌	その他	
1月	9		1																		1	
2月	9																				0	
3月	17																				0	
4月	2																			1	1	
5月	17				1		1													2	4	8
6月	25		1				2													5		8
7月	39				1		7				1									6		15
8月	80						15													1	4	20
9月	40		1				4															5
計	238	0	3	0	2	0	29	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	15	8	58

(2) 呼吸器系細菌検査

表5 感染症検査における月別検査件数及び呼吸器系細菌検出状況(菌株含む)

	検体件数	検出細菌数									検出細菌数計
		結核菌培養	結核菌VNT R	A群溶血性レンサ球菌	レジオネラ属菌	肺炎球菌	インフルエンザ菌	百日咳菌	マイコプラズマ	その他	
1月	31		5	4		5	3				17
2月	34		12	3		7					22
3月	28		5			8					13
4月	25		3	3		3	1				10
5月	31		8	4		5	2				19
6月	37		15	1		6	1				23
7月	18		1	1		3	1				6
8月	31		10	1		3					14
9月	24		6	1		2				1	10
計	259	0	65	18	0	42	8	0	0	1	134

表6 T-スポット.TB検査※件数

	検体件数
1月	77
2月	57
3月	68
4月	71
5月	112
6月	54
7月	75
8月	101
9月	115
計	730

※T-スポット.TB 検査 結核患者接触者健診等で実施する結核の感染を早期に発見するための診断補助検査

3 侵襲性肺炎球菌感染症菌株解析結果

侵襲性肺炎球菌感染症は、平成 25 年 4 月から、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）における 5 類全数届出疾患になり、発生状況を把握できるようになりました。

当研究所では、市内で届出のあった侵襲性肺炎球菌感染症患者由来の菌株を収集し、国立感染症研究所の協力のもと、血清型別や、発生状況の把握、ワクチンに含まれる血清型との比較等の解析を行っています。

平成 25 年 4 月から平成 29 年 3 月までの届出数は各年度とも年間 40 例前後で推移しています。

5 歳未満の小児では平成 25 年度は 16 例でしたが、26 年度、27 年度はともに 6 例、28 年度は 5 例と減少しています。65 歳以上では平成 25 年度 15 例、26 年度 19 例、27 年度 25 例、28 年度は 33 例と増加傾向が見られました。

年度別分離状況は、小児は平成 26 年度以降、小児の定期接種に使用されている PCV13 ワクチンに含まれる血清型は 2 例（うち 1 例はワクチン未接種者）のみでした（図 1）。成人では、高齢者の定期接種に使用されている PPSV23 ワクチンに含まれる血清型の分離割合は、平成 25 年度 70.6%、平成 26 年度 72.4%、平成 27 年度 75.0%、平成 28 年度は 81.8%と大きく変動はありませんでしたが、PCV13 に含まれる血清型の分離割合は平成 25 年度 64.7%、平成 26 年度 44.8%、平成 27 年度 53.1%、平成 28 年度は 36.4%と、低下傾向が見られます（図 2）。

なお、ワクチン接種率（定期接種対象者に対する割合）は小児 101.6%、成人 29.1%（平成 27 年度川崎市健康福祉年報より）です。侵襲性肺炎球菌感染症の予防のためには、ワクチン接種が重要と考えられます。

<参考リンク>

- 1 川崎市：小児の肺炎球菌感染症の定期予防接種について
(<http://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000049234.html>)
- 2 川崎市：高齢者を対象とした定期の肺炎球菌感染症予防接種
(<http://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000060825.html>)

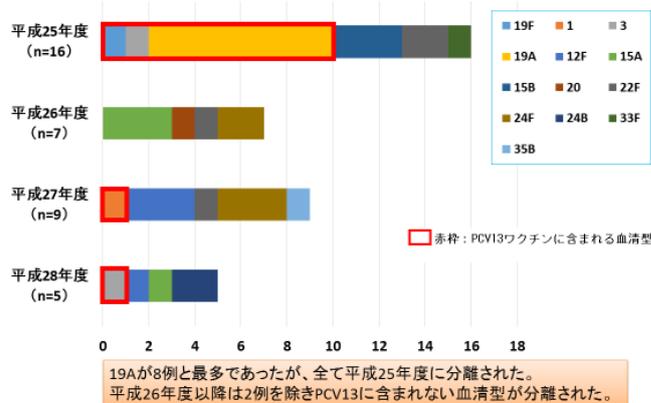


図 1 年度別 15 歳未満小児における血清型分離状況

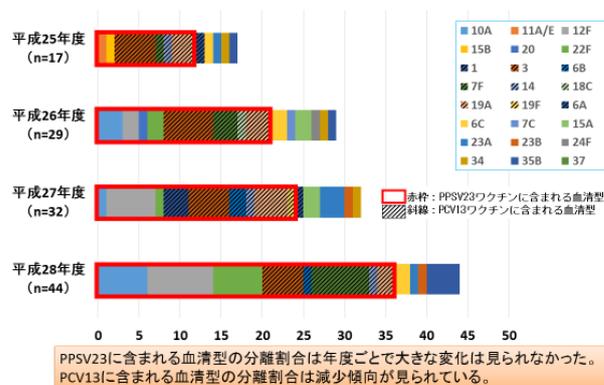


図 2 年度別 15 歳以上における血清型分離状況